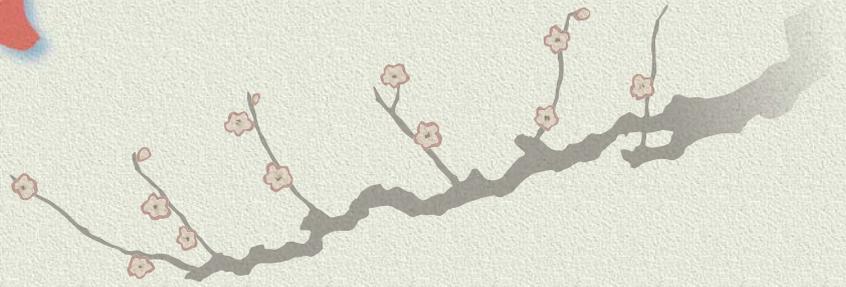


学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ

Anniversary
2014
60th

真剣味



中京大学 | 広報 180号

2014年7月24日発行

主な内容

- ②-③ 自治体などと連携／東京五輪の組織委員会と協定
- ④ 実務翻訳者育成／国家公務員総合職に10人合格
- ⑤ 工学部・学生選抜チームがロボカップジャパンOP優勝
- ⑦ 科学研究費助成事業に新規29件
- ⑧-⑨ 中京大学決算／梅村学園決算
- ⑩ 開学60周年記念講演会「小宮山宏・三菱総合研究所理事長」
- ⑪ 今秋のイベント案内
- ⑬ 2015年度入試日程
- ⑭-⑮ ゼミにフォーカス「実験・実証」
- ⑯-⑰ 7つの研究力「法曹養成研究所」
- ⑱-⑲ 「現代社会学部」4専攻制へ



中京に歴史あり 1954年◀◀

開学を伝える「大学新聞」は「入学案内」を兼ねて1954年度に作られ、内外に配布された。「学問とスポーツの殿堂」の見出しが躍る第1面は建学の精神と教育方針が謳いあげられ、体育会系の運動12クラブ、文化系の学芸15クラブを紹介。題字の下に「授業料1万4,000円」と記されている。

発行 中京大学 広報部
〒466-8666 名古屋市昭和区八事本町101-2
TEL.052-835-7111代

自治体などと共に地域振興

相互に人材を育成

地域の活性化や学校教育の充実、人材育成の強化などを目的に、今年4月、本学はキャンパスを置く名古屋市の教育委員会と、学園内の三重高等学校、三重中学校、梅村幼稚園のある三重県松阪市と協

定を締結した。

本学と連携する自治体は他にも、昨年3月に包括連携協定を結んだ豊田市があり、学生による地域イベントの企画や運営、教員による連続講座などで協力を行っている。

名古屋市教育委員会

小中学校の体育・部活動を補助

教員目指す学生に実践の場

名古屋市における学校教育の充実と、本学の人材育成を強化するため、本学と名古屋市教育委員会は4月30日、名古屋キャンパスで相互連携に関する協定を結んだ。同教育委員会と大学全体との包括協定は初めて。

教職課程の履修生は毎年約600人を数え、かねてより「教育実習以外でも実践の場を」という要望が上がっていた。

協定締結により、教員を目指す学生が小中学校で体育実技を補助したり、部活動を指導する機会が安定的に増える。指導者の実践機会をより多く得ること社会人基礎力の育成にもつな



協定を締結し握手をする北川学長(左)と下田教育長

松阪市

学術協力で政策提案など 地域活動の支援や インターンシップ



「社会人基礎力講座」で山中市長(右)の話聞く学生ら

本学と松阪市は「人材育成と地域振興」に関する協定の締結式を4月14日、松阪市役所で行った。

山中光茂市長は、「梅村学園の多くの卒業生が市や市内の企業で活躍している。協定がこれからの地域づくりのスタートラインになるとうれしい」とあいさつ。インターンシップなどを通じた大学生の人材育成にも、市として関わっていききたいと抱

負を述べた。

北川薫学長は、「ゆかり深い地で、本学をパートナーに指名いただきありがたい。11学部11研究科の視点から、松阪市の発展に助力していきたい」と話した。協定締結に先立ち、昨年実施された松阪市の政策立案コンテスト「未来松阪市」で総合政策学部桑原プロジェクト研究チームが最優秀賞を受賞した。同チームが提案した、特産品のブランド化を進める部署「MAD E INまつさ課」は今年4月に新設され、予想を上回る問い合わせがあるという。

4月17日には「市民が役割と責任を持つまちづくり」をテーマに、山中市長を特別講師として総合政策学部の「社会人基礎力講座 公共編・ビジネス編」で講義が行われた。今後は、学生や教員が地域活動や地域スポーツの振興を支援していく。

名古屋市

法学部 杉島ゼミがリーフレット作成

消費者啓発委託事業

法学部の杉島ゼミが、消費生活に関する啓発リーフレット「あなたにふりかかるのは明日

かもしれない!」トラブル回避の方法」を作成し、4月に在学生に配布した。

マルチ商法や電子マネー、クレジットカード、オンラインゲームなどの注意点、被害防止対策などが分かりやすくまとめられており、消費者問題についての知識を深め、トラブルに遭わないよう注意喚起している。作成部数は7千部。本学公式サイトにも掲載されている。

東京オリンピック・パラリンピック 教育研究やPRで組織委員会と連携



組織委員会の役員(最前列)と各大学の代表者が協定書を手記念撮影

本学含む大学・短大 552校が協力

本学を含む大学・短大552校が2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピック競技大会の組織委員会と、大会の成功に向けた取り組みで連携する協定を結んだ。大学の知的、人的、施設面での資源を活用して、教育や研究、PR活動を推進する。有効期間は2020年12月31日まで。

6月23日に行われた協定締結式で、森喜朗・組織委員会会長は「550校を超える大学の協力を得て、産官学のオールジャパン体制で取り組むことができる。素晴らしい大会にするために、大学の知恵と力をお借りしたい」とあいさつ。大学側を代表して、鎌田薫・早稲田大学総長は「オリンピックの主役である選手の育成、輩出において、これまでも大学は大きな役割を果たしてきた。成功に向け、大学の枠を越えて交流を図り、最大限の努力を約束する」と述べた。

オリンピック講座の開講 学生ボランティア育成など

協定の柱となるオリンピック教育の推進は、各大学が「オリンピック講座」などを開講して、オリンピックの理念や歴史、文化に及ぼす影響、オリンピッ

ク・ムーブメント(スポーツを通じて友情やフェアプレーの精神、相互理解などを培い、世界平和を目指す活動)などを学生や市民に教えていく。

また、外国人への観光案内、パラリンピックにおける障がい者への支援、学園祭でのPR活動など、学生ボランティアによる協力が期待されている。大学側は、学生たちへの多言語の語学力や各種スキルの向上に取り組んでいく。学生たちにとっても、オリンピックの運営にボランティアとして携わることは貴重な体験となる。

北川学長「選手育成や オリンピック教育の拠点に」

北川薫学長は「本学は1959年に体育学部(現・スポーツ科学部)を開設し、スポーツや健康に関する教育研究で成果をあげてきた。55年間の蓄積を生かし、選手育成の研究・実践拠点として、また、オリンピック教育、オリンピック・ムーブメントの知見を提供する拠点として取り組んでいきたい」と抱負を語った。

本学関係のオリンピック出場者は夏季・冬季合わせ52人(延べ96人)に上る。今年2月のソチオリンピックには浅田真央選手をはじめ、7人が出場した。

一方で、名古屋市は小中学生の体力向上や運動の習慣化を課題に挙げている。下田一幸・名古屋市教育局教育長は「大学が持つ知恵を借りて、子どもたちがもっと運動を好きになれば」と充実した授業作りや部活動支援へ期待を込めていた。

北川薫学長は「本学スポーツ科学部のマンパワーやノウハウを、小中学生の体力や技術の向上に少しでも役立てたい。運動指導に加えて、ほかの10学部の方野においても協力できる」とあいさつ。「生徒たちには、教員よりも年の近い学生と接する中で、ボールの投げ方や速く走る方法などを習得していったほうがいい」と話している。



名古屋市は学校における消費者教育を推進しており、大学や高等学校、中学校と連携を図りながら、市民の消費生活の安定や向上、被害の防止に取り組んでいる。リーフレットの作成は、名古屋市の「2013年度大学等への消費者啓発委託事業」に本学が協力する形で進められた。

2014年度は名古屋市から「消費者教育モデル校」に選ばれ、学生が関心のある消費者問題をテーマに、被害に遭わないように啓発活動や消費者教育に取り組む事業に協力する。今年度も杉島ゼミが担当し、消費者啓発の企画立案と実践方法を名古屋市に提案し、協議しながら進めていく。

国際英語キャリア専攻

実務翻訳者育成で日本初の試み

プロ向け専用ソフト使い実践学修

国際英語学部国際英語キャリア専攻は2015年度、プロ仕様の翻訳支援ソフトを使った授業（翻訳とIT）、「ビジネス翻訳実務」を日本で初めて開講する。製品マニュアルやホームページのコンテンツ、さらに特許申請書など、ビジネスの現場で制作される文書を翻訳する「実務翻訳」の専門的な学修が目的だ。

海外においては、多くの大学で実務翻訳者の育成が行われており、専門的な学修がプロフェッ

ショナル翻訳者として活躍するための必須要件となっており、翻訳支援ソフトの使用法を教授



翻訳支援ソフトの画面を確認する学生ら

する授業も行われている。

使用する専用ソフトは業界において世界90%のシェア「TRADOS STUDIO 2014」（SDL社製）。原文と訳文をペアにして登録しながら翻訳することにより、翻訳スピードを上げるとともに、訳語等の一貫性を保持することができる。授業では、ソフトの活用術にとどまらず、意味や解釈の微妙な違いに対応できる感性や、訳に対する説明責任を果たせるだけの論理性といった、プロに相応しい能力を磨く。

7月5日には、同専攻の開設を記念して実務翻訳家を招きシンポジウムが開かれ、真の国際人を育成する教育の在り方などをテーマに熱い討議が行われた。

公務員採用試験の最難関、国家公務員総合職（旧・国家公務員1種）試験の結果が6月23日、人事院から発表さ

れ、本学の合格者は過去最高の10人だった。2012年度8人、2013年度5人で、9年連続で合格者を輩出している。

学部別の内訳は、法学部6人、心理学部2人、経済学部1人、未報告1人。法学部生の将

最難関の国家公務員総合職

10人合格は私大9位

来を考え支える会の幹事長、土井崇弘教授は「学生には、第一にゼミ、講義の重要性を説いて

招いての講演会・パネルディスカッションも実施している。学内開講のダブルスクール、公務員試験対策講座との

連携などもあり、学生の意欲と実力の向上に着実につながっている」と話している。

いる。理解を深めるために現役公務員らを講師とする選抜制ゼミを開講し、実務家や先輩を

合格者数10人は、私立大学の中では全国9番目、中部地区では1位。

高大連携

単位認定型先行授業

高校3年生70人が
大学授業を受講



国際英語学部の講義科目を受講する在大学生と高校生

高校生が大学生と同じ正規の授業を受講し、大学入学時に取得済み単位として認定される制度「単位認定型先行授業」を、中京大中京高校と本学との間で昨年度に試験運用を開始。本年度も先行的、実験的な位置づけとして、春学期に実施した。

同制度は、高大連携教育プログラムの柱として位置づけ、本年度春学期は5学部（文、国際英語、国際教養、心理、法）の授業を計70人の高校3年生が受けた。成績評価は大学の基準で行われ、60点以上が合格。1つの科目の単位修得により、大学と高校の両方の単位として認められるのも大きな特徴である。

中京大中京高校の高大連携

推進室は、①生徒たちは高校生のうちに大学の学びに触れることで勉強に対するモチベーションを高めている、②学部選定の基準として、また大学進学の学習イメージ作りとして考えている、③高大連携教育を推進している附属校ならではの制度として保護者の関心が高い、と話している。

先行授業を受けた生徒は「警察官になりたいので、法学部の講義科目を履修した。将来につながる実感できる」ととても貴重な機会なので、後輩たちにも勧めたい、「希望学部（選択）や将来像が徐々にイメージできるようになってきた」など成果を感じている。



産学連携
商品

6/1~
販売開始

経営・中村ゼミと総合政策・宮川ゼミ

ハンドジェル『香つて手キレイ』

経営学部の中村ゼミ・総合政策学部の宮川ゼミと化粧品メーカー(株)フタバ化学が、2013年4月から共同で開発を行ってきたアロマハンドジェル『香つて手(かお)つてキレイ』が商品化された。

『香つて手キレイ』は洗浄だけを目的とせず、「いつでも、どこでもリフレッシュ」できる新感覚のハンドジェル。勉強や仕事中でもフレッシュシトラスの香りでもフレッシュシトラスの香りでもリフレッシュ、手洗いのできない電車の中などでも簡単にアルコール洗浄できてスッキリ、

保湿成分アロエエキスが手をしっとり、と3つの効果を合わせ持つ。携帯しやすいよう40mlの小型サイズにした。

6月1日から通販サイト(株)リーブルで販売開始、サークルK(中京大学豊田キャンパス店、地下鉄・金山店)、サンクス(八事広路店)の3店舗でも限定販売された。通販価格は税込み1500円(40ml×3個)。

学生たちは商品開発の提案にとどまらず、ホームページ、ツイッター、フェイスブックなどで本プロジェクトの進捗状況や開発経緯等の情報を消費者やメディアに向けて定期的に発信するなど、プロモーション活動も行っている。

ロボカップ
ジャパンオープン

工学部の
学生選抜チームが優勝

全自動の
2足歩行ロボットで
サッカー試合



ロボカップジャパンオープン2014(5月4-6日、九州工業大学)で、工学部の学生選抜チーム Chukyo RoboStars が、ロボカップサッカーのSSL-Humanoid(小型のヒト型ロボット)リーグで優勝した。

同リーグは、各チームが全自動の2足歩行ロボット3台を使用してサッカーの試合を行い、得点を競う。試合中は、コンピュータ、ロボット、リモコンなどに一切触ることができない。人工知能の技術を駆使し、天井

近くに設けられたTVカメラからの画像信号を用いて、ロボット自らが「見る」、「考える」、「動く」のである。

Chukyo RoboStars は、昨年度の優勝チームを退け、負けなしの1位で予選を通過。決勝戦はPK戦にもつれ込む激戦での勝利。出場5年目にして初優勝を飾った。同チームは本学工学部「プロジェクト活動助成」の支援を受け、有志による研究活動として、林俊太郎さん(3年)ら学生9人と顧問の沼田宗敏教授

が中心となつて取り組んできた。今後、研究成果をまとめ、学部レポートを報告する。

◆
ロボカップは「サッカーの世界チャンピオンチームに勝てる、自律型ロボットのチームを作る」という夢に向かって、人工知能やロボット工学などの研究を推進する世界的プロジェクト。創設には、本学工学部の前身である情報科学部の初代学部長、福村晃夫名誉教授が大きく関わっている。

総合政策・市島ゼミが提案
美濃加茂市役所に4つの施策



総合政策学部市島プロジェクト研究(ゼミ)は、昨年度、美濃加茂市経営企画部と地域連携協定を締結。自主財源確保策に関して、全国の全市を対象にアンケート

詳細に示してほしい」と具体性を求められた。再度、市職員にヒアリング調査を行い提出した最終報告書では、より実現可能な提案を行った。

ト調査・分析を行い、2月に政策提案報告会を美濃加茂市役所で開催した。提案した政策は「市有財産の有効活用ー剪定枝粉砕機の無償貸出ー」、「新たな会議スタイルータブレット導入によるペーパーレス会議ー」、「積極的な基金運用ー財政調整基金の債券運用ー」、「広告掲載事業ー新たな広告媒体ー」の4つ。美濃加茂市職員からは「人件費のところをもっと

図書館の貴重書 11

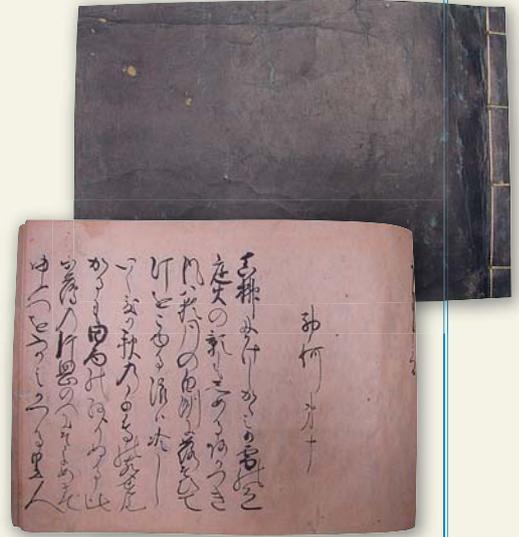


鎌倉千句 (貴128)
荏柄天神に
奉納された連歌千句

本書は、連歌師猪苗代兼如が、伊達政宗の命によつて鎌倉の荏柄天神に参籠し、慶長十三年(一六〇八)十月四日から一日百韻(百句を連ねる連歌の基本的形式)ずつ詠じ、十三日に成就して奉納したもの。兼如は里村紹巴に師事し、細川幽斎から古今伝受を受けたらしい。政宗に召し抱えられた時期は、関ヶ原の戦いの後か。

中京大本は江戸時代前期の書写と思われる。

比較的早い時期の写本である。天理大学附属天理図書館蔵の一本や宮内庁書陵部蔵本には、「願主」として政宗のほか、佐竹義宣・大久保忠隣・浅野長政、生駒(秋田)実季、松平(毛利)秀就、本多正純等の名が各百韻の発句(最初の句)に記されているとのことで、各武将からの祈願が目的の奉納連歌であつたと思われるが、残念ながら中京



大本には記載がない。

なお本学図書館はほかに『兼如連歌千句』(貴113)を所蔵し、国文学研究資料館の日本古典籍総合目録データベースは『鎌倉千句』の項に分類するが、正しくは『慶長九年十二月兼如独吟千句』(『俳文学大辞典』では『堀尾出雲殿追善千句』)である。

(文学部教授 柳沢 昌紀)

目視検査をロボット化・自動化



左から青木教授、興水教授、舟橋助教

工学部の興水大和教授らのプロジェクトが自動車技術会賞

工学部の興水大和教授、青木公也教授、舟橋琢磨助教とトヨタ自動車(株)計測技術部の研究グループのまとめた論文「目視検査作業の定量化を目指した人の検査メカニズムのモデル化」が、プロジェクト内の若手研究者に贈られる自動車技術会賞「浅原賞(奨励賞)」に選ばれた。

従来、自動車用部品の製造品質確保のために、形状のズレやキズの有無の判断などは、最終的には検査作業員が行っていた。今回、検査員の動きや視知覚を科学的に解析し、目視検査のロボット化・自動化の技術を開発した。興水教授は、「世界に冠たる日本の自動車技術分野において高く評価され、その意義と現場の期待は大きい」と話す。

本共同研究グループは、画像処理分野では国内最大級の研究発表会、VIEW2012ビジョン技術の実利用ワークショップにおいても最優秀論文賞「小田原賞」を受賞している。

中田名誉教授が世界の金平糖を寄贈

「金平糖博物館」誕生

金平糖(コンペイトー)研究の第一人者である中田友一・本学名誉教授が、長年収集した研究資料を名古屋市西区の愛知菓子会館に寄贈し、同館内に「金平糖博物館」が設立された。展示されるのは、世界各国の金平糖のほか、江戸時代の広告版画「引き札」や成長過程の金平糖など約60点。6月21日にオープンセレモニーが開かれ、中田名誉教授による講演とともに展示物の説明も行われた。



コレクションを前にした中田名誉教授

情報発信を行ってきた。角のでき方を不思議に思い研究を始めたという中田名誉教授は、「16世紀から世界で愛されてきた金平糖をこれからも守っていききたい」と話している。

同博物館(平日9-16時)の見学は要予約。問い合わせは同会館 052(561)3380。

7氏に名誉教授の称号

本学園理事会は、中京大学を今春退職した元教授7氏に4月1日付で名誉教授の称号を授与した。本学の名誉教授称号授与者は計128人。

称号を授与されたのは次の皆

- ▼ さん(カッコ内は退職時の所属学部)。
- ▼ 細井輝男氏(国際教養学部)
- ▼ 中田友一氏(国際教養学部)
- ▼ 白井賢一郎氏(国際教養学部)
- ▼ 松田昇氏(現代社会学部)
- ▼ 小野征夫氏(現代社会学部)
- ▼ 猿田正機氏(経営学部)
- ▼ 猪俣公宏氏(体育学部)

●国際教養学部 渡邊航平准教授が優秀入選

肉離れの発症メカニズムの解明へ



国際教養学部の渡邊航平准教授が、公益財団法人石本

記念デザインスポーツ科学振興財団の学術研究助成に優秀入選として採択され、6月6日に授賞式が行われた。

受賞研究課題は「走運動時におけるハムストリングスの活動特性の部位差と肉離れ発症メカニズム解明への新たなアプローチ」

「走運動時におけるハムストリングスの活動特性の部位差と肉離れ発症メカニズム解明への新たなアプローチ」が、二関節筋における肉離れの発症メカニズムに強く関連していると考え、研究を進めて期待される。

●工学部の青森久講師が助成事業に採択

身近な風景を後世に伝える



工学部の青森久講師の研究課題「画像デジタルアーカイブ」

イブのための様々な再生機器解像度に対応する高エネルギー逆画像符号化手法に関する研究」が5月27日、公益財団法人日比科学技術振興財団の研究助成事業に採択された。

生体の優れた視覚システムである網膜を二本とした人工網膜ネットワークを利用し、無損失

かつ高い圧縮性能を実現すること、様々な解像度を持つ機器での利用を想定した圧縮データ形式を持つ新しい画像圧縮方式を実現することを目標としている。災害からの復興や防災計画立案上、生活に密着した風景をデジタル的に保存する重要性が増している。青森講師は「東日本大震災により、故郷の風景が失われる辛さを体験した。採択された研究課題により、身近な風景を後世に伝える手助けができれば」と語っている。

2014年度 科学研究費助成事業
新規29件、採択率37.7%
総額1億2,809万円

2014年度「科学研究費助成事業」に本学から新規29件(学術研究助成基金助成金23件、科学研究費補助金6件)が採択され、継続分41件と合わせ総数が70件、配分される総金額は1億2,809万円となった。新規の応募77件に対して採択29件、採択率は37.7%だった。※2014年6月末現在

学術研究助成基金助成金 (新規採択分)		(単位: 千円)	
所属・氏名	研究課題名	交付決定額	研究種目
国際英語学部教授 森 有礼	北米及びカリブ海地域におけるツーリズムに対するコロナリズムの影響と推移	1,100	基礎研究(C)
国際教養学部教授 都築 雅子	非英語母語話者とのコミュニケーションにおける日本人英語音声の中心特性	1,000	
国際教養学部准教授 板倉 敏一郎	9.11同時多発テロ以降のパキスタン系英語小説	400	
心理学部教授 水野 里恵	自己制御に係る2つの気質と対人場面での「自己」の制御: 就学前期の縦断研究	900	
現代社会学部教授 野口 典子	福祉系専門職連携を基盤とした災害ソーシャルワークの実践的方法論の開発に関する研究	1,700	
経営学部准教授 川端 勇樹	地域新産業の振興に向けた中小企業を中心とする組織間連携の成立と発展のプロセス	800	
工学部教授 橋本 学	熟練作業の数値化と記号表現のためのセンシング技術に関する研究	2,100	
工学部准教授 加納 政芳	言語と非言語のはざまインタラクション	1,700	
スポーツ科学部教授 梅村 義久	リン摂取過剰において運動が骨代謝およびリン・カルシウム代謝に及ぼす影響	1,300	
国際教養学部教授 楠美 順理	原子力発電の是非を題材とした意思決定支援のための環境教育手法の構築	500	挑戦的萌芽研究
国際教養学部准教授 野村 昌司	経験的データに基づく主格・対格目的語の作用域と情報構造・韻律の研究	1,200	
心理学部教授 河原 純一郎	平均・加重を越えた多要素集団の持つ魅力評価手法の確立	1,500	
現代社会学部准教授 相澤 真一	未来の社会科学ユーザを育てるためのカリキュラム構築: 社会学系学部の学部教育から	1,300	
文学部講師 宮内 佐夜香	近代日本語における逆接接続詞の発達に関する記述的研究	900	若手研究(B)
国際教養学部准教授 今 有礼	低酸素下での高強度インターバルトレーニングが糖脂質代謝および身体組成に及ぼす影響	1,900	

国際教養学部准教授 渡邊 航平	高齢者における運動単位の活動特性とトレーニングに対する適応に関する研究	1,900	若手研究(B)
経済学部准教授 都丸 善央	国際輸送産業を考慮した新しい貿易理論～貿易・輸送のパターンに関する研究～	800	
経済学部准教授 古川 雄一	金融政策が経済成長に与える影響に関する定性・定量分析	800	
経済学部准教授 湯田 道生	マイクロデータを用いた医療・介護保険制度の非効率性に関する経済学的分析	500	
工学部講師 道満 恵介	自動車運転支援のための運転者の認知状態推定に関する研究	1,100	
工学部助教 村田 晴美	音楽理論を用いた音楽電子透かし法	1,400	
体育学研究科実験実習助手 石村 和博	曲走路疾走における加速局面のメカニズム	2,400	
特別研究員(PD) 水野 貴正	ダイナミックストレッチングが筋腱の弾性に及ぼす影響	1,100	

科学研究費補助金 (新規採択分)		(単位: 千円)	
所属・氏名	研究課題名	交付決定額	研究種目
心理学部教授 河原 純一郎	意図的な行動生成時における注意資源配置のダイナミクス	4,100	基礎研究(B)
現代社会学部教授 松田 茂樹	日本とアジア新興国における少子化・教育・雇用の関連に関する国際比較研究	800	
法学部教授 檜山 幸夫	台湾総督府文書目録データベース	6,500	研究成果公開促進費(研究成果データベース)
特別研究員(PD) 池田 功毅	注意セットの時間的ダイナミクス: ERP研究	1,100	特別研究員奨励費(国内)
特別研究員(PD) 池本 裕行	近世日本社会における経済発展と死亡構造の関係に関する研究	800	
特別研究員(PD) 水野 貴正	静的ストレッチングによる関節可動域増大への大脳皮質の寄与	1,200	

※基礎研究(B)については、一部学術研究助成基金助成金を含む

2013年度 梅村学園の決算

学園の決算も同様に確定しましたので、その概要を説明します。2013年度の消費収支計算書は図表4のとおりです。

消費収入の部では、帰属収入が191億82百万円で、予算を上回ることができました。そのうち学生生徒等納付金は164億27百万円で、帰属収入における構成比率は85.6%となっています。補助金は17億26百万円で、帰属収入に占める割合は9.0%です。また、寄付金は1億10百万円でした。

次に、基本金に組み入れた額は、施設設備整備に伴う第1号基本金組入等49億87百万円でした。その結果、2013年度の消費収入は141億95百万円となりました。

一方、消費支出の部は、総額190億53百万円で、予算内での執行となりました。消費支出のうち、人件費は100億22百万円、消費支出における構成比率は52.6%となっています。また、教育研究経費は61億86百万円で、前年度に比べ増加し、消費支出に占める割合は32.5%となっています。なお、資産処分差額は主に施設設備の除却によるものです。

消費収入から消費支出を差し引いた結果は48億58百万円の支出超過となりました。これは施設設備の取得により、基本金組入額が大きかったことが要因となっています。

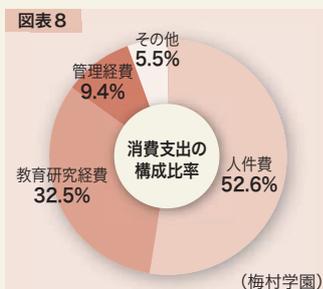
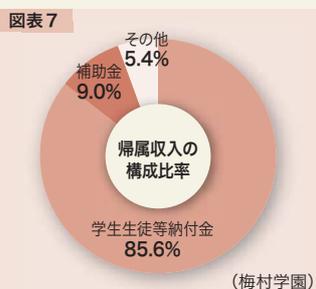
この消費収支計算書の帰属収入、消費支出の構成比率は図表7、図表8のとおりです。また、図表9は、消費収支計算書関係の財務比率の過去5年間の推移を示しています。

次に、資金収支計算書(図表5)の科目ですが、施設整備への支出は13億79百万円、機器備品・図書などへの支出は13億25百万円でした。

貸借対照表の概要は図表6のとおりです。資産総額は1,004億57百万円で、前年度に比べ2.6%減少しています。一方、負債の総額は191億48百万円で、前年度に比べ12.9%減少しました。また、基本金と消費収支差額を合わせた額は813億9百万円で、前年度に比べ0.2%増加しました。主な貸借対照表の過去5年間の関係比率は図表10のとおりです。

なお、中京大学及び梅村学園の消費収支計算書及び資金収支計算書の予算額については予備費振替後のものです。

(理事 鬼頭 俊二)



設備の修繕、維持、保全に要する経費④ 学生募集のために要する経費⑤補助活動事業のうち食堂、売店のために要する経費等に該当することが明らかな経費が管理経費とされます。それ以外の経費については、主たる用途に従って教育研究経費か管理経費のいずれかに含めます。光熱水費等のように双方に関連するものは校舎面積等で按分しています。

「基本金」

基本金とは、学校法人が教育・研究等諸活動の計画に基づき必要な資産を継続的に保持するために維持すべきものとして、帰属収入の中から組み入れた金額をいいます。

図表4 2013年度 梅村学園消費収支計算書 (単位:千円)

消費収入の部			消費支出の部		
科目	予算額	決算額	科目	予算額	決算額
学生生徒等納付金	16,337,090	16,427,116	人件費	10,095,483	10,022,253
手数料	482,868	493,702	教育研究経費	6,406,600	6,185,538
寄付金	83,092	109,669	管理経費	1,957,872	1,789,854
補助金	1,704,428	1,725,883	借入金等利息	77,684	77,678
資産運用収入	137,525	136,893	資産処分差額	978,497	977,315
資産売却差額	225	226	予備費	20,069	—
事業収入	237,857	219,272	消費支出の部合計	19,536,205	19,052,638
雑収入	69,850	69,336	当年度消費支出超過額	5,653,722	4,857,898
帰属収入合計	19,052,935	19,182,097			
基本金組入額合計	△5,170,452	△4,987,357			
消費収入の部合計	13,882,483	14,194,740			

図表5 2013年度 梅村学園資金収支計算書 (単位:千円)

収入の部			支出の部		
科目	予算額	決算額	科目	予算額	決算額
学生生徒等納付金収入	16,337,090	16,427,116	人件費支出	10,520,137	10,446,900
手数料収入	482,868	493,702	教育研究経費支出	4,574,985	4,351,997
寄付金収入	14,240	14,307	管理経費支出	1,673,867	1,505,853
補助金収入	1,704,428	1,725,883	借入金等利息支出	77,684	77,678
資産運用収入	137,525	136,893	借入金等返済支出	985,104	985,102
資産売却収入	1,976	1,976	施設関係支出	1,384,307	1,379,423
事業収入	237,857	219,272	設備関係支出	1,501,697	1,325,353
雑収入	197,841	215,178	資産運用支出	1,451,410	1,451,398
前受金収入	2,756,280	2,868,046	その他の支出	3,371,629	3,253,223
その他の収入	4,442,521	4,465,193	予備費	44,750	—
資金収入調整勘定	△3,160,029	△3,231,638	資金支出調整勘定	△1,019,935	△1,677,654
前年度繰越支払資金	12,988,172	12,988,172	次年度繰越支払資金	11,575,134	13,224,827
収入の部合計	36,140,769	36,324,100	支出の部合計	36,140,769	36,324,100

図表6 2013年度 梅村学園貸借対照表 (単位:千円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
固定資産	86,787,741	固定負債	13,008,849
有形固定資産	69,610,581	長期借入金	6,844,002
土地	15,275,750	退職給付引当金	6,164,847
建物	39,056,725	流動負債	6,138,971
構築物	3,655,702	短期借入金	962,451
教育研究用機器備品	1,756,651	未払金	1,637,949
その他の機器備品	268,453	前受金	2,868,046
図書	9,348,346	預り金	670,525
車両	39,555	負債の部合計	19,147,820
建設仮勘定	209,399	基本金の部	
その他の固定資産	17,177,160	科目	金額
ソフトウェア	99,484	第1号基本金	89,624,582
電話加入権	5,574	第3号基本金	70,424
有価証券	38,100	第4号基本金	1,405,000
長期貸付金	92,338	基本金の部合計	91,100,006
長期前払金	284,775	消費収支差額の部	
退職給付引当特定資産	2,900,440	科目	金額
減価償却引当特定資産	4,785,000	翌年度繰越消費支出超過額	9,790,985
奨学資金特定資産	2,920,000	消費収支差額の部合計	△9,790,985
将来計画準備引当特定資産	3,086,120	科目	金額
第3号基本金引当資産	70,424	負債の部、基本金の部および消費収支差額の部合計	100,456,841
その他固定資産	2,894,905		
流動資産	13,669,100		
現金預金	13,224,827		
未収入金	366,672		
仮払金	51,160		
前払金	26,441		
資産の部合計	100,456,841		

(注)長期性預金はその他固定資産に含む

図表9 梅村学園消費収支計算書関係比率 (単位:%)

評価	算式	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
学生生徒等納付金比率	△ 納付金/帰属収入	83.8	82.8	86.3	86.1	85.6
補助金比率	△ 補助金/帰属収入	9.3	7.3	8.1	8.4	9.0
人件費比率	▼ 人件費/帰属収入	51.8	72.5	51.0	55.0	52.2
教育研究経費比率	△ 教育研究経費/帰属収入	30.4	29.8	30.9	28.8	32.2
帰属収支差額比率	△ (帰属収入-消費支出)/帰属収入	6.8	-15.2	4.6	5.8	0.7

図表10 梅村学園貸借対照表関係比率 (単位:%)

評価	算式	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
固定比率	▼ 固定資産/自己資金	92.1	95.1	94.3	110.3	106.7
固定長期適合率	▼ 固定資産/自己資金+固定負債	86.9	86.4	86.0	93.8	92.0
流動比率	△ 流動資産/流動負債	338.8	338.1	372.4	176.2	222.7
総負債比率	▼ 総負債/総資産	10.5	14.0	13.2	21.3	19.1
自己資金構成比率	△ 自己資金/総資産	89.5	86.0	86.8	78.7	80.9

(注)△高い値が良い ▼低い値が良い と言われています
自己資金=基本金+消費収支差額

先般、中京大学の2013年度決算が確定しました。各計算書については図表1および図表2のとおりですが、消費収支計算書の決算数字を中心としてその概要を説明します。

●消費収支計算書(図表1)

1. **学生生徒等納付金**: 147億9百万円で前年度に比べて14百万円減少しました。帰属収入に対する構成比率は90.5%となっています。構成割合は収入の各科目間の相対的なものでもあり、他の収入科目の増減によっても左右されますが、この構成比率は高い水準が続いています。

なお、2013年5月1日現在の学生総数は13,137人でした。

2. **手数料**: このうち97.0%が入学検定料です。入学検定料収入は4億7百万円、前年度に比べて9百万円の減少となりました。また、帰属収入に対する構成比率は2.6%となっています。

2014年度入試の志願者は31,907人でした。

3. **寄付金**: 特別寄付金が12百万円、現物寄付金が92百万円でした。帰属収入に対する構成比率は0.6%となっています。

4. **補助金**: 帰属収入に占める割合は3.9%となっています。経常費補助金は6億29百万円で前年度に比べて1億2百万円の増加となりました。また、経常的経費に対する割合は4.8%でした。

5. **資産運用収入**: 前年度に比べ28百万円、17.5%の減少となりました。帰属収入に対する割合は0.8%です。うち、受取利息収入の割合は51.2%です。

6. **事業収入**: 受託事業およびオープンカレッジ等受講料の収入です。前年度に比べて13百万円の増加となりました。

7. **帰属収入**: 収入の合計は162億59百万円であり、対前年度比71百万円、0.4%の増加となりました。

8. **人件費**: 78億51百万円で、対前年度比1.5%の増加となりました。帰属収入に対する人件費率は48.3%、消費支出の構成比率は52.5%です。2013年5月1日現在の専任教員は317人、専任職員は188人でした。

9. **教育研究経費**: 54億83百万円で、対前年度比18.1%の増加となりました。また、消費支出における構成比率は36.6%でした。

このうち減価償却費は14億85百万円、教育研究経費に占める割合は27.1%でした。

10. **管理経費**: 14億42百万円で、対前年度比10.4%の減少となりました。その消費支出における構成比率は9.6%でした。

11. **借入金等利息**: 71百万円で、前年度に比べて40百万円の増加となりました。

12. **消費収入・消費支出**: 基本金組入額は47億3百万円で、前年度より42億67百万円減少しました。その結果帰属収入から基本金組入額を控除した消費収入は115億57百万円となりました。一方、消費支出は149億67百万円で、対前年度比6.0%の増加となりました。消費収入から消費支出を差し引いた消費収支差額は34億11百万円の支出超過となりました。

●資金収支計算書(図表2)

各科目については消費収支計算書の中で概要を説明していますので、ここでは資金収支計算書の特有な科目のうち主なものに

図表1 2013年度 中京大学消費収支計算書(単位:千円)

消費収入の部			消費支出の部		
科目	予算額	決算額	科目	予算額	決算額
学生生徒等納付金	14,622,910	14,708,985	人件費	7,916,613	7,851,135
手数料	408,970	419,747	教育研究経費	5,691,557	5,483,392
寄付金	78,300	103,923	管理経費	1,551,180	1,442,218
補助金	630,391	630,531	借入金等利息	71,249	71,248
資産運用収入	131,300	129,630	資産処分差額	123,415	119,354
資産売却差額	225	226	予備費	36,410	—
事業収入	237,857	219,272	消費支出の部合計	15,390,424	14,967,347
雑収入	51,700	47,008	当年度消費支出超過額	4,106,402	3,410,723
帰属収入合計	16,161,653	16,259,322			
基本金組入額合計	△4,877,631	△4,702,698			
消費収入の部合計	11,284,022	11,556,624			

図表2 2013年度 中京大学資金収支計算書(単位:千円)

収入の部			支出の部		
科目	予算額	決算額	科目	予算額	決算額
学生生徒等納付金収入	14,622,910	14,708,985	人件費支出	8,177,743	8,110,467
手数料収入	408,970	419,747	教育研究経費支出	4,206,786	3,996,693
寄付金収入	12,300	12,300	管理経費支出	1,289,940	1,180,979
補助金収入	630,391	630,531	借入金等利息支出	71,249	71,248
資産運用収入	131,300	129,630	借入金等返済支出	747,630	747,630
資産売却収入	226	226	施設関係支出	1,365,700	1,360,838
事業収入	237,857	219,272	設備関係支出	1,337,619	1,162,925
雑収入	51,700	47,008	資産運用支出	1,431,410	1,431,398
前受金収入	2,445,975	2,561,901	その他の支出	3,642,904	3,909,963
その他の収入	4,014,227	4,108,848	予備費	50,000	—
資金収入調整勘定	△2,563,956	△2,270,115	資金支出調整勘定	△869,574	△1,527,119
前年度繰越支払資金	12,203,009	12,203,009	次年度繰越支払資金	10,743,502	12,326,320
収入の部合計	32,194,909	32,771,342	支出の部合計	32,194,909	32,771,342

ついて説明します。

1. **前受金収入**: 2014年度入学生の学生生徒等納付金は、春学期分が2014年3月末日までに納入されるため、2013年度の収入とします。

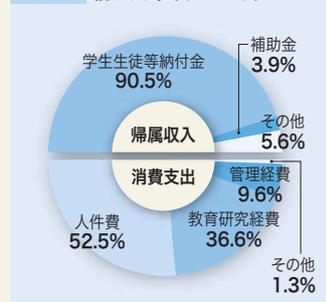
2. **資金収入調整勘定**: 期末未収入金と前期末前受金は、現金収受が前年度または翌年度以降行われ、2013年度には資金の流れが伴わないので控除されます。

3. **施設関係支出**: 建物・構築物等に対する支出で、名古屋キャンパス9号館の耐震工事をはじめとした校内整備工事等を行いました。

4. **設備関係支出**: 機器備品・図書等の取得のための支出です。教育研究用機器備品取得のうち主なものは、教室設備関係機器、情報・ネットワーク関係機器、体育関係機器備品等です。また、図書の2013年度末現在の蔵書数は約130万6千冊です。

5. **資金支出調整勘定**: 期末未払金と前期末前払金は現金支払が前年度または翌年度以降行われ、2013年度に資金の流れを伴わないので控除されます。

図表3 構成比率(中京大学)



【決算の用語説明】

「消費収支計算書」

消費収支計算書は、企業会計の損益計算書とは異なり、利益の多寡を明らかにする目的ではなく、当該年度の消費収入(帰属収入から基本金組入額を控除したもの)と消費支出の内容および均衡の状態を明らかにするために作成されます。

「資金収支計算書」

資金収支計算書は、当該会計年度の

教育研究活動に対応するすべての資金の収入・支出の内容を明らかにし、かつ当該会計年度における支払資金のてん末を明らかにするものです。

「教育研究経費と管理経費」

学校事業に要する経費のうち、①総務・人事・経理、その他これに準ずる業務の経費②教職員の福利厚生のための経費③教育研究活動以外に使用する施設、

開学60周年記念 第3回講演会

「行動する人材を育成し、 日本再創造」と提唱

小宮山 宏 三菱総合研究所理事長
(前 東京大学総長)



中京大学開学60周年記念の第3回講演会が5月28日、前東京大学総長の小宮山宏・三菱総合研究所理事長を講師に迎えて開かれ、学生80人を含む約480人が聴講した。

工学博士で、地球温暖化問題対策技術などを研究している小宮山理事長は、21世紀のキーワードを『有限の地球、高齢化する社会、爆発する知識』とし、これらの課題を解決し、日本を再創造するために、行動する人材を育てることが肝要と話した。

小宮山理事長は世界の現状について「人類史の転換期に差しかかっている」とし、「途上国と先進国との差が縮まり、クルマなどの人工物が飽和する時代に入っている。世界の平

均寿命は110年前31歳だったのが、今は70歳になっており、こうした難題に取り組んできた日本こそが課題解決先進国として存在感を発揮できると述べた。

また、温暖化、高齢化などの課題を同時に解決するための「プラチナ社会ネットワーク」を提案しており、「衣食住や情報、長寿などの量が満たされた後、求められるのは質であり、これが産業とどう関わるか。今後はより良い暮らしを実現するプラチナ産業が経済成長の源泉になると考える」と語った。

小宮山理事長は「課題を発見し、課題をつくる能力をいかに育てるか。それが日本再創造の源になる」と学生たちに語りかけた。



編集記

少子高齢化や教育、環境など、身近で自分たちに直接関係する問題を考えると時々不安になる。各方面の専門家が切迫した状態であるとテレビや新聞等で必死に訴えかけている。子どもたちの未来は大丈夫だろうか◆大学生だった30年前、これらの問題についてゼミ(経済学)で議論する場が設けられたが、実感もなく、他人事と思っていた。平和ボケした学生だった◆来春、4専攻制になる現代社会学部は「学生たちに社会の諸問題と正面からしっかりと向き合ってもらい、自分の存在を認識してほしい」という理念で教育体制を強化する◆問題意識が低かった大学生の頃を悔いても始まらない。書家・相田みつをの言葉「今日から今から」を噛み締め、学生たちに負けないよう強く関心を持つと決めた(は)

人の「ために」ではなく 人と「ともに」

吉田 文 さん
認定NPO法人 ICAN



「笑っていれば困難が逃げていくよ」。フィリピンの貧しい人たちと「ともに」生活向上を目指して活動する認定NPO法人ICANに務める吉田さんは、大型台風の影響や強制立ち退きにあつた直後に笑顔で話すフィリピンの人たちに驚いた。

本学に入学した当初、自信がなく劣等感を感じていたが、毎日のように出される課題を仲間と必死にこなす中で徐々に自信が付き、積極的に海外に行くようになった。

世界の貧困を直視しようとインドに行つた大学3年次に、人生の転機が訪れた。

「笑っていれば困難が逃げていくよ」。柄が心地よくて毎日、声を掛けていた。ある日、突然亡くなったが、周りは誰も気に止めない。「人の命は平等か」と疑問を抱き、同時に「世界の貧困を解決する力を持ちたい」と強く思ったと言う。

現在、講演会などを通して世界の貧困への関心を高めようと、愛知県を中心に活動している。問題山積で落ち込むことも多いが、信頼できる仲間とともに乗り越えてきたという吉田さん。「最近は大変な状況に直面すると、時々笑えるんです。仲間がいるから強くなれる。家をなくしたフィリピンの人たちが笑っていたのは、単に樂觀的というわけではなく、仲間との強い絆があるから。だから私たちは人々の『ために』ではなく、人々と『ともに』活動をしています」と語った。

●岐阜県安八郡出身。2006年中京大学国際英語学部卒。旅行会社勤務後、2009年より認定NPO法人ICAN勤務。趣味はクライミング。

● 公開講座

▶ 文化・芸術・教育シリーズ

演題 教育の諸問題とリーダーの心得

日時 9月22日(月) 15:00～16:30

会場 名古屋キャンパス 図書館・学術棟 清明ホール

講師 前原 金一さん(経済同友会副代表幹事・専務理事)

▶ ソフトサイエンスシリーズ

演題 この時代の工学教育を展望する

日時 10月16日(木) 15:00～16:30

会場 名古屋キャンパス 図書館・学術棟 清明ホール

講師 白井 克彦さん(放送大学学園理事長・前早稲田大学総長・
日本オープンオンライン教育推進協議会(JMOOC)理事長)

● 大学祭

日時 10月31日(金)～11月2日(日)

名古屋10:00～、豊田11:00～

会場 名古屋・豊田両キャンパス

テーマ 名古屋:「素(もと)」

豊田:「翔」

▶ 今年の大学祭(名古屋キャンパス)



● アートギャラリーC・スクエア

会場は名古屋キャンパス 4号館1階 C・スクエア

▶ オープンカレッジ 書道講座作品展

日時 10月7日(火)～11日(土) 10:00～15:00 ※最終日13:00

▶ 文化科学研究所 硯と墨色の試み

～中京大学収蔵 古名硯展示

日時 10月14日(火)～17日(金) 10:00～17:00 ※最終日14:00

▶ オープンカレッジ 水墨画の世界作品展

日時 11月11日(火)～18日(火)

10:00～16:00 ※最終日12:00(㊥㊦は休館)

● AI研究所・名古屋市科学館の連携講座

おいを消す不思議な「タマゴ」を作ろう!

— 大学教授と学ぶものづくり —

工学部の野浪亨教授、
上野ふき助教らの指導で
粘土からタマゴを作りなが
ら、実験を通じておいを
消す仕組みなどを学ぶ。

小学生と保護者対象の
2週連続講座。要申し込み。

日時 9月6日(土)・13日(土)

13:30～16:30

会場 名古屋市科学館
第1実験室

(詳細はホームページ参照)



● 中京大学開学60周年記念事業

第59回文部科学大臣杯

全国青年弁論大会

《弁論日本一を目指す若人の祭典》

日時 11月9日(日) 9:00～17:00 【入場無料】

会場 中京大学 清明ホール

主催 日本弁論連盟・中京大学

後援 文部科学省、愛知県、名古屋市、豊田市、愛
知県教育委員会、名古屋市教育委員会、豊
田市教育委員会、高等学校文化連盟全国弁
論専門部、中日新聞社、中京大学同窓会、中
京大学教育後援会

受験生対象

● オープンキャンパス

日時 9月14日(日) 10:00～16:00

会場 豊田キャンパス

実施学部：現代社会学部、スポーツ科学部、

工学部(情報工・メディア工学科のみ)

今秋のイベント案内

在学生の保護者対象

● キャンパス見学会

日時 11月1日(土) 10:30～15:00

会場 名古屋・豊田両キャンパス ※大学祭と同時開催

同窓生対象

● ホームカミングデー

日時 11月1日(土) 10:30～15:00

会場 名古屋・豊田両キャンパス ※大学祭と同時開催

● 全国同窓会

日時 10月11日(土) 19:00～

会場 長崎市・ベストウエスタンプレミアホテル

● 支部同窓会 (18:00～)

▶ 福岡県福岡市 9月13日(土) 西鉄グランドホテル

▶ 福島県郡山市 9月20日(土) 郡山ビューアネックスホテル

▶ 岡山県瀬戸内市 10月4日(土) ホテルリマーニ

▶ 千葉県千葉市 10月18日(土) ホテル ザ・マンハッタン

▶ 鳥取県倉吉市 10月25日(土) 倉吉シティホテル

▶ 香川県高松市 11月22日(土) JRホテルクレメント高松

▶ 山梨県甲府市 11月29日(土) ホテル談露館

▶ 三重県松阪市 12月13日(土) 華王殿

2014年度

中京大学の予算

先般の学園評議員会および理事会におきまして、中京大学の2014年度予算が決定されましたので、概要を説明します。資金収支予算書は表1、消費収支予算書は表2のとおりです。

●資金収支予算書(表1)

(収入の部)

1. 学生生徒等納付金収入:142億66百万円を計上。予算学生数の見込みにより、2013年度予算に比べ2.4%の減少となりました。
2. 手数料収入:3億57百万円を計上。ほとんどが入学検定料です。
3. 補助金収入:6億49百万円を計上。国庫からの補助金が主なものです。
4. 資産運用収入:受取利息等の収入で、1億24百万円を見込みました。

(支出の部)

1. 人件費支出:80億59百万円を計上。2013年度予算と比べ1.4%減少しています。
2. 経費支出:教育関連経費、研究費、学生募集経費など、教育研究経費と管理経費で構成されています。あわせて49億9百万円で、前年度予算と比べ10.7%の減少です。
3. 施設関係支出:名古屋キャンパス8号館耐震工事、0号館空調工事、その他校内整備などの事業費として10億48百万円を計上。
4. 設備関係支出:教室設備、情報機器、図書費などの支出として5億82百万円を計上。

●消費収支予算書(表2)

1. 帰属収入:156億77百万円を計上。2013年度予算と比べ3.0%の減少となっています。
2. 基本金組入額:組入額として13億97百万円を計上。前年度予算と比べ34億81百万円減少しました。
3. 消費収入:帰属収入から基本金組入額を控除した消費収入は142億80百万円で、前年度予算と比べ増加となりました。
4. 消費支出:148億42百万円を計上。前年度予算と比べ3.6%減少しています。
5. 消費収支差額:帰属収入は消費支出を上回っていますが、基本金組入額が大きく、結果として、消費収入から消費支出を差し引いた収支差額は5億62百万円の支出超過が見込まれています。

2014年度

梅村学園の予算

梅村学園の予算も同様に決定されました。その資金収支予算書は表3、消費収支予算書は表4のとおりです。

消費収支予算の収入の部では、帰属収入は185億54百万円を計上。2013年度予算と比べ2.6%減少しています。学生生徒等納付金収入は、159億74百万円を計上。各学校の学生生徒園児数の見込みにより、前年度予算と比べ2.2%減少しています。また、補助金収入は、国庫からの補助金と地方公共団体からの補助金とを合わせ前年度予算とほぼ同額の17億22百万円を計上。

基本金組入額は16億4百万円で前年度予算と比べ35億66百万円減少しました。その結果、帰属収入から基本金組入額を差し引いた消費収入の予算額は169億50百万円です。

消費支出の予算額は182億27百万円で、同6.7%の減少です。人件費支出は101億69百万円を計上。前年度予算と比べ0.8%

表1 2014年度 中京大学資金収支予算書 (単位:千円)

収入の部			支出の部		
科目	2014年度予算	2013年度予算	科目	2014年度予算	2013年度予算
学生生徒等納付金収入	14,266,411	14,622,910	人件費支出	8,059,487	8,177,743
手数料収入	356,696	408,970	教育研究経費支出	3,744,654	4,206,786
寄付金収入	0	12,300	管理経費支出	1,164,202	1,289,940
補助金収入	649,130	630,391	借入金等利息支出	64,603	71,249
資産運用収入	124,200	131,300	借入金等返済支出	742,110	747,630
資産売却収入	0	226	施設関係支出	1,048,120	1,365,700
事業収入	227,657	237,857	設備関係支出	582,219	1,337,619
雑収入	53,000	51,700	資産運用支出	1,050,030	1,431,410
前受金収入	2,458,378	2,445,975	その他の支出	1,217,066	3,642,904
その他の収入	556,000	4,014,228	予備費	50,000	50,000
資金収入調整勘定	△2,447,975	△2,563,956	資金支出調整勘定	△421,396	△869,574
前年度繰越支払資金	10,743,502	12,203,008	次年度繰越支払資金	9,685,904	10,743,502
収入の部合計	26,986,999	32,194,909	支出の部合計	26,986,999	32,194,909

表2 2014年度 中京大学消費収支予算書 (単位:千円)

消費収入の部			消費支出の部		
科目	2014年度予算	2013年度予算	科目	2014年度予算	2013年度予算
学生生徒等納付金	14,266,411	14,622,910	人件費	7,982,804	7,903,023
手数料	356,696	408,970	教育研究経費	5,248,924	5,691,557
寄付金	0	78,300	管理経費	1,445,772	1,551,180
補助金	649,130	630,391	借入金等利息	64,603	71,249
資産運用収入	124,200	131,300	資産処分差額	50,000	123,415
資産売却差額	0	225	予備費	50,000	50,000
事業収入	227,657	237,857	消費支出の部合計	14,842,103	15,390,424
雑収入	53,000	51,700	当年度消費支出超過額	561,898	4,106,402
帰属収入合計	15,677,094	16,161,653			
基本金組入額合計	△1,396,889	△4,877,631			
消費収入の部合計	14,280,205	11,284,022			

表3 2014年度 梅村学園資金収支予算書 (単位:千円)

収入の部			支出の部		
科目	2014年度予算	2013年度予算	科目	2014年度予算	2013年度予算
学生生徒等納付金収入	15,974,430	16,337,090	人件費支出	10,366,459	10,502,387
手数料収入	427,941	482,868	教育研究経費支出	4,139,104	4,574,985
寄付金収入	1,820	14,240	管理経費支出	1,512,528	1,673,867
補助金収入	1,721,717	1,704,428	借入金等利息支出	68,501	77,684
資産運用収入	129,821	137,525	借入金等返済支出	962,546	985,104
資産売却収入	0	1,976	施設関係支出	1,148,120	1,384,307
事業収入	227,657	237,857	設備関係支出	603,739	1,501,697
雑収入	171,444	197,841	資産運用支出	1,070,030	1,451,410
前受金収入	2,743,528	2,756,280	その他の支出	1,019,359	3,371,629
その他の収入	763,013	4,442,521	予備費	58,500	62,500
資金収入調整勘定	△2,988,220	△3,160,029	資金支出調整勘定	△545,664	△1,019,935
前年度繰越支払資金	11,575,134	12,988,172	次年度繰越支払資金	10,345,063	11,575,134
収入の部合計	30,748,285	36,140,769	支出の部合計	30,748,285	36,140,769

表4 2014年度 梅村学園消費収支予算書 (単位:千円)

消費収入の部			消費支出の部		
科目	2014年度予算	2013年度予算	科目	2014年度予算	2013年度予算
学生生徒等納付金	15,974,430	16,337,090	人件費	10,169,413	10,084,083
手数料	427,941	482,868	教育研究経費	5,937,348	6,377,420
寄付金	2,620	83,092	管理経費	1,819,877	1,956,032
補助金	1,721,717	1,704,428	借入金等利息	68,501	77,684
資産運用収入	129,821	137,525	資産処分差額	176,143	978,486
資産売却差額	0	225	予備費	55,500	62,500
事業収入	227,657	237,857	消費支出の部合計	18,226,782	19,536,205
雑収入	69,865	69,850	当年度消費支出超過額	1,276,892	5,653,722
帰属収入合計	18,554,051	19,052,935			
基本金組入額合計	△1,604,161	△5,170,452			
消費収入の部合計	16,949,890	13,882,483			

の増加です。また、各学校の教育研究経費と管理経費は合わせて77億57百万円を計上。

このような帰属収入と基本金組入額の予算により、消費収入から消費支出を差し引いた収支差額は12億77百万円の支出超過が見込まれていますが、帰属収入は消費支出を上回っています。

次に、資金収支予算のうち、施設および設備整備事業費は17億52百万円を計上。中京大学、附属中京高等学校、三重高等学校での施設工事や設備整備等を行い、その他図書等の充実を図ります。

(理事 鬼頭 俊二)

2015年度 入試日程 決まる

本学の2015年度入試日程が決まった。AO(アドミッション・オフィス)入試が10月に、推薦入試が11月に始まる。前期日程入試は2月1、4～8日、後期日程入試は3月7日。

前期日程と後期日程入試の出願はインターネット出願で受け付ける。願書の紙代や処理に関わる人件費を削減することにより、受験生の経済的負担の軽減につなげている。

試験区分の特徴は次のとおり。教科・科目や出題範囲、配点、併願の可否、試験会場などの詳細は本学受験生向けホームページ「Net Campus」に掲載。



一般入試はネット出願で 前期日程の入試方式を紹介

志願者の約80%が利用する一般入試の前期日程は、全国(最多18会場)で実施するA方式、M方式、得意科目重視型CP方式と、個別試験を課さないセンター試験利用方式の4方式がある。

A方式は、オーソドックスな私立大学の入試3教科型(スポーツ科学部は実技試験不要の2教科)で実施する。試験は記述式、マーク式解答を併用。4日間の試験日を設定し、成績上位者66人に奨学金を給付する。

全問がマークシート方式で出題されるM方式は、3教科型と2教科型がある。2教科型は得点の高い科目の配点が2倍に換算されるため、得意教科を生かすことができる。

センター試験利用方式は、3科目型、4科目型、5科目型があり、高得点の科目から順に採用して合否判定する。センター試験後まで出願を受け付ける。

得意科目重視型センタープラス方式は、センター試験の2科目(必須1科目と高得点1科目)に、本学独自の試験1科目を課す。本学独自試験は、英語、国語、数学の3つから選択し、A方式と同様に記述式、マーク式解答を併用する。

2015年度 学部入試日程

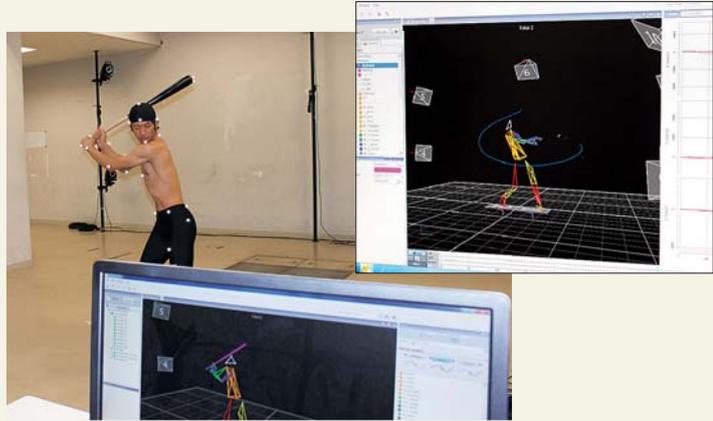
試験区分	実施学部	出願期間			試験日	合格発表日	
		郵送(消印有効)	窓口受付日	ネット出願			
AO入試	国際英語・国際教養	9月9日⑩～9月17日⑩	9月18日⑩	実施せず	一次 書類審査 二次 10月11日⑤	一次 10月4日⑤ 二次 10月17日⑤	
	スポーツ科	10月21日⑩～11月4日⑩	11月5日⑩		11月29日⑤	12月3日⑩	
推薦入試	公募制一般 <small>※スポーツ教育・競技スポーツ科学科を除く</small>	全学部	10月21日⑩～11月10日⑩	11月11日⑩	実施せず	11月22日⑤	11月29日⑤
		スポーツ科 (スポーツ教育・競技スポーツ科学科)				11月29日⑤	12月3日⑩
	特Ⅰ	文・国際英語・国際教養・ 現代社会・法・工	10月21日⑩～11月4日⑩	11月5日⑩		11月22日⑤	11月29日⑤
		総合政策・経済・経営				11月15日⑤	
	特Ⅱ	全学部 <small>※競技スポーツ科学科を除く</small>	10月21日⑩～11月4日⑩	11月5日⑩		11月22日⑤	
特Ⅲ	経済・経営・総合政策 工	11月15日⑤ 11月22日⑤					
前期日程入試	全学部	実施せず	1月7日⑩～ 1月23日⑤	1月7日⑩～ 1月16日⑤	2月4日⑩	2月17日⑩	
					2月5日⑩		
					2月6日⑤		
					2月8日⑩		
					2月1日⑩		
					2月7日⑤		
センター試験利用方式 3科目型	1月7日⑩～ 1月23日⑤	1月7日⑩～ 1月23日⑤	1月7日⑩～ 1月23日⑤	個別試験は 課さない	3月7日⑤		
						1月7日⑩～ 2月2日⑩	
センター試験利用方式 4科目型/5科目型	1月7日⑩～ 2月2日⑩	1月7日⑩～ 2月2日⑩	1月7日⑩～ 2月2日⑩	個別試験は 課さない	3月7日⑤		
						2月17日⑩～ 2月26日⑩	
後期日程入試	全学部	実施せず	2月17日⑩～ 2月26日⑩	2月17日⑩～ 3月10日⑩	3月7日⑤	3月17日⑩	
					個別試験は 課さない		

お問い合わせ先 中京大学入試センター TEL.052-835-7170(直)

2. 動作と力を3次的に解析 体幹のブレ、蹴り足の力・方向など

野球のバッティングフォームを、フォースプレートとモーションキャプチャーシステムを利用して解析すると、バットのスイング速度や軌道、体重移動、蹴り足の力と方向など、様々な結果が瞬時に得られる。動きの支点となる首や肩、腰、手首など全身40箇所に反射マークを付け、四方八方に設置された10台のカメラで撮影。3次元の座標データとして記録するシステムだ。

桜井伸二教授のゼミ生たちは交代でバッティングフォームを撮影し、解析結果を見ながら「腰のブレが少なく安定している」「軌道が綺麗な弧を描いている」「軸足の後方へのキック力が強い」「上からの動きを見ることで、体の前後左右の動きが分かる」など、見解を口にする。ソフトテニス部に所属する深尾望月さん(3年)は「科学的に得た実験データを活用し、競技力の向上に生かしたい」と桜井ゼミを志望した動機を語る。教員志望の長田侑也さん(3年)は「根拠を知り、理論的な裏付けを持って指導できる保健体育科の教員になりたい」と卒業後の自分を意識しながら取り組んでいる。



バッティングフォームを解析する実験装置

桜井ゼミのテーマは、身体運動を科学的、理論的に学ぶバイオメカニクス。地面反力計測、筋電図や高速度撮影による映像分析などを繰り返し、動作の特徴を分析していく。「健康やスポーツ科学に関する情報がテレビや雑誌にはあふれている。鵜呑みにせず、分析条件の違いや個人差までを調べることが大切。頭で考えるだけでなく、見て、触れて、動くことで理解を深めてほしい」と学生に伝えている。

3. 企業との共同研究の一端担う 地道な検査作業の先に光明



「人間のよう高い精度で材料のキズ検出ができるシステムを研究している。産業用ロボットによる検査システムのチェックなど、地道な検査作業に多くの時間を費やしているが、企業から調査方法なども学べるので楽しい」と話す櫻井頼宗さん(3年)は、企業との共同研究の一端を担っている。

現在、自動車メーカーなど、9つの共同・委託研究

を受けている青木公也教授の研究室。ゼミ生も自主的な課外活動として関わり、実用化に貢献できるようにと、実験・実証を繰り返している。青木教授は「社会と接点を持ち、企業の研究の進め方や追究する姿勢を学ぶことができる。卒業研究への糧、就職を意識した活動として絶好の機会となる」と話す。

工学部の青木研究室は、モノづくりの現場で使用される作業ロボットのセンサに関わるシステム開発や検証に取り組んでいる。研究テーマは『知的な目を持つコンピュータ』。人間の物体を認識する能力の素晴らしさを理解した上で、人間のように高度で、人間より精密かつ高速な画像処理システムの開発を目指している。

「卒業までに、実際に使えるシステムを作り上げ、大学時代の成果としたい」と抱負を語る古家裕大さん(3年)。同研究室にはOBも参加する勉強会があり「最新情報や手法など知識を深めることができる」と先輩の支援を受け、研究力を高めている。

ゼミに + フォーカス focus on seminars

【第2回テーマ】「実験・実証」

仮説→実験→検証サイクル 論理的思考鍛える

高齢者の技能習熟度は練習方法でどう変わるか、スポーツにおける呼吸と動作の関連は何か、顔の表情を自動認識するセンサやロボット技術を応用し、実験システムを作るには――

学び得た知識を基に仮説を立てて実験し、統計や解析などのツールから結果を検証し、再び仮説を立ててシステムを作り成果を導く。学生は実験のサイクルを繰り返す中で、社会に出て必要とされる論理的思考や考察力を磨いている。

少人数教育を生かして様々な「実験・実証」教育に取り組む心理、スポーツ科、工学部の3つのゼミを取り上げる。

認知心理学

1. 「注意」する力の制御は可能か 反応時間や脳波、視線の動きで分析

心理学部

河原 純一郎ゼミ〈3,4年〉

交通事故につながるドライバーの見落としはなぜ起こるのか、薬剤師による薬の取り違えの原因は何か、印象に残る顔になる化粧とは――河原純一郎教授が指導するゼミのテーマは認知心理学。脳は一度に処理できる容量には限界があるため、必要に応じて取捨選択する。その際に重要な役割を担う「注意」



被験者の反応時間を測定するゼミ生

はどこまで制御できるか。ゼミでは心理物理実験、脳波計測、視線解析、質問紙調査などの手法を用いて研究を進めている。

伊藤資浩さん(4年)は、注意の制御がどの程度まで意図的に制御できるのかを調べている。学生の被験者20人に、たくさんものの中から標的文字を探して素早くボタンを押すという、コンピュータゲームのような課題をやらしてもらった。このとき“100%全力を出し切って”注意を向けて探す場合と、“50%の力で手を抜いて”注意を向けて探す場合を設けた。

被験者は、主観的には50%と100%の使い分けは

できたと答えていた。しかし、実際の探す成績にはその主観は全く反映されておらず、自分の思ったとおりに注意が配分できていなかったことがわかった。伊藤さんは、「意識的な活動でさえも、実は自分で制御できていないかもしれない」と指摘する。

修士1年の佐藤史織さんは、何か別のことをしていても、顔には自動的に注意が向いてしまうことを示す実験を学部生の時から行ってきた。日常的には魅力的な顔は注目を集めることは誰もが何となく知ってはいるけれど、顔は注意をどのくらいの時間引きつけるのかはこれまで厳密には測定されていなかった。実験の結果、顔は短時間だけ注意を自動的に引きつけるという特性がわかり、その成果は最近、国際的な学術誌へ掲載されることになった。

河原教授は、「問題解決のための知識を付けるだけでなく、問題点を見つけ、解決策を提案する能力と、その解決策が効力を発揮しているかを検証する能力を身につけてほしい」と力を込めていた。



「注意は制御可能か」をテーマに発表する伊藤資浩さん

リーガルエイド事業

未来の法曹育む

法科大学院併設 中京市民法律事務所

法曹養成研究所は、法律サービスをもっと気軽に利用してほしいと、本学法科大学院併設「中京市民法律事務所」の法律相談の窓口業務を担う。同法律事務所は、本学関係者のための顧問事務所を目指すと同時に、法科大学院生が実務経験を積む臨床法学教育の場としての役割も果たしている。

同事務所の法律サービスは、次の場合無料となる。①本学の学生、OB・OG、教職員が初回に行う法律相談、②顧客の同意の上で「リーガルクリニック」科目を履修する大学院生



「リーガルクリニック」の授業で依頼人の相談に乗る名越弁護士と早川さん

が学習の一環として同席する法律相談、③授業や教材としての使用を顧客が了承した案件。学生は、「踏み倒されたアルバイト代を支払ってもらいたい」「詐欺被害にあったかのように対処したら良いか」といった相談で、同事務所を訪れている。

無料法律相談を行う「リーガルクリニック」の授業では、本学法科大学院第一期生の名越陽子弁護士が指導にあっている。たとえば、就職の面接に行く途中に交通事故に遭って面接を受けられなかった場合に、もしその会社に採用されていればもらえたであろう給料相当額を、損害賠償請求できるのか。

その面接が一次面接ではどうか、最終面接ではどうか。大学院生は、相談者に質問をしたり、その場で回答を検討しながら、判断を導く感覚を身に付けていく。訴状や答弁書などの起案や、訴訟や調停で使用する資料の準備を手伝い、実務も習得している。

法律相談に同席した早川佳太さん(3年生)は、「先生がどのようにして必要な情報を引き出すかを吸収して、どの法律が案件に当てはまるのかを即座に判断する力を付けていきたい」と、意欲的に話していた。

【無料法律相談の問い合わせおよび予約先】

中京市民法律事務所 TEL:052-835-8329

支える3本の柱

法曹養成研究所は、裁判官、弁護士、検察官といった法曹の志願者の能力開発を支援する実務研究を行っている。法科大学院と両輪となり、幅広い知識を持ち様々な事例に適応できる司法試験合格者を輩出することが目的だ。法曹になった後も、改正が頻繁に行われる法律に対応し最適な判断ができるよう、サポートを続けている。

同研究所の柱は、教材を開発する「法曹養成研究事業」、市民に広く法律上の支援を行う「リーガルエイド事業」、定期的なセミナーで地域の企業法務家を育てる「法務研修事業」の3つ。それぞれの取り組みを紹介する。



法務研修セミナーで発言する池野教授(中央奥)

ない大企業は株主総会で説明責任が発生する点など。参加者らは、社外取締役を置くための準備や裁判時の注意点などについて活発に意見を出し合った。

池野教授は「県の企業法務のレベルを本研究所と実務家で底上げしていける生涯学習の場になれば」と力強く話していた。



研究所 DATA

開設 2004年4月

運営委員数 5人

定期刊行物

「CHUKYO LAWYER」

法務研修セミナー

「新会社法を読むー会社法大改正?の結末ー」

「スポーツ選手のパブリシティ権」

(2014年)

学術講演会

「刑事司法手続きにおける法曹の倫理」

(2014年)

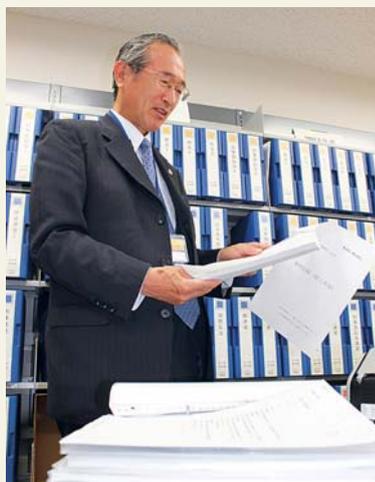


法曹養成研究事業

実在の事件が教材に 点字の法律書も作成

法曹養成研究所は、法科大学院の教員が個々に教材を作ることを推奨し、これまでに多数の教材を制作・改訂して大学院生をバックアップしている。

2004～2006年当時、点字で発行されている法律書は六法全書のみだった。同研究所は、目の不自由な大学院生の入学を機に、点字で法律の用語集や基本書を作成。パソコンのソフトで読み上げられるよう、授業のレジュメのほか、出版社



オリジナル教材を準備する山田研究所長

の協力を得ながら法律書をデータ化し、大学院生の司法試験合格にも貢献した。

実務科目に重点を置く同研究所が作る記録教材は、強盗や不動産の明け渡しなど、実際に起きた事例を基にしている。土地の売買契約や登記など時間と共に変化する事実関係や、複雑な血縁・人間関係

を簡素化。独自の教材は、「検察官側の理論や争点の本筋がわかりやすい」「ディスカッションで当時の裁判の詳細が再現できた」と大学院生からも好評を得ている。

山田幸彦研究所長(法科大学院教授)は、「弁護士や検察官など実務家教員の体験をオリジナルの教材を通じて共有して『理論と実務の架橋』という理念を実現していきたい」と話している。

自主ゼミ指導で学習効果高める

法科大学院生は、授業時間外に司法試験に向け勉強する自主ゼミグループを作っている。法曹養成研究所は、自主ゼミと本学出身の弁護士とを、指導希望分野や性格からマッチ

ングさせて指導を促し、自学自習の効果を高めている。

民事訴訟法の自主ゼミでは、大学院生が事前に解答したものを基に、卒業生が論点を確認した。「論文問題で不安な部分があったが、先輩のアドバイスは実務面にも即して参考になった」と、大学院生からも好評だ。

卒業生らは月に約5回行う指導の都度、同研究所に指導内容や参加者の理解度などを記した報告書を提出。指導報告書は、法科大学院の授業の効果が上がるよう、教員にも参考意見として共有される。

自主ゼミに積極的に協力している柴垣直哉さん(2010年修了)は、「後輩に教えることで、自分も理解が深められる。これからは、大学に恩返ししていきたい」と話している。

法曹の卵～実務家



法曹養成研究所

法務研修事業

法務研修セミナーで 弁護士や大学院生が生涯学習

最近注目されているトピック(たとえばスポーツ選手のパブリシティ権)や、新しい改正法、判例などについて、弁護士や大学院生が勉強する場として、法曹養成研究所は2カ月に1度、法務研修セミナーを開いている。セミナーには、本学法科大学院の教員や卒業生、大学院生のほか、愛知県弁護士会に所属する弁護士らが参加する。日常的に法律相談を受ける司法書士や行政書士、税理士も集まり、法務に関わる人たちが情報交換している。

第38回セミナー(3/15)には約20人が参加。池野千白・法科大学院教授が、「新会社法を読むー会社法大改正?の結末ー」と題して、2014年6月20日に成立した改正会社法を先取りして取り上げた。改正による変更は、社外取締役を置か

現代社会学部 4専攻制へ (2015年度)



現代社会学部は2015年4月から、4専攻制を導入し、新カリキュラムへと移行する。新しい社会を構想する想像力を養う「社会学専攻」、社会の現状を調査するための知識とスキルを修得する「コミュニティ学専攻」、社会の中で生きにくさを感じる人々を援助する能力と資格を得る「社会福祉学専攻」、国境と異文化を越えて活躍する人材を目指す「国際文化専攻」。それぞれ違った側面から、社会に対する見方と社会との取り組み方を学んでいく。

自分を知り、人を知り、社会を知り、何をすべきかを追究する現代社会学部。体系的な学びを基礎に、社会で生き抜くために知識を編集する力を養う。学びの過程で、学生たちが自分と向き合い、自分の存在を確認し、自分の問題を解決していくキャリア教育にも力点を置く。



社会の諸問題と正面から向き合う

「グローバル」と「ローカル」の 双方向から

現代の社会には、災害からの復興、少子高齢化、環境汚染、民族紛争など、多くの問題が存在する。これらへの対応を議論するうえで、近年、社会学という学問が注目を集めている。

少子化問題を研究している松田茂樹教授は「出生率の低下の8割は未婚化が原因。少子化が進むことで、社会保障制度の維持や地域社会の助け合いなどが困難になる。経済活動も縮小していく」と話す。社会学では、このような問題を「グローバル化への対応」と「ローカルな視点の再構築」の2つの方向に分けて考えていく。

村上隆学部長は「社会がグローバルとローカルという両方向に引き裂かれる中で、人と人とのつながりをどうしたら回復できるだろうか。このことが、日本という国の行く末にとっても、個人の将来の生活にとっても、最も大切な問題になってきた」



村上学部長

と話す。地域の中小企業の製品が多国籍企業を顧客にして活躍するように、「グローバル化への対応」と「ローカルな視点の再構築」、この2つの考え方を両極端とするのではなく、1つにつながった問題としてとらえていくことが重要である。

「つながり支えあう社会」の実現へ

現代社会学部では「つながり」をキーワードに、グローバルとローカルの双方向の視点で認識を深める教育を柱に据える。社会の諸問題と正面から向き合い、「つながり支えあう社会」の実現を目指すために何をすべきか。村上学部長は「学生たちには、大きな変動が予想される社会の中で、どのように生きていくかを考えると同時に、生きていくための力をつけてほしい。そのために、講義や書物から得る知識だけでなく、社会現象が起こっている現場に足を運んで、人とのつながりの中で知恵を身に付けてほしい」と話す。

現代社会学部では、中日ドラゴンズとナゴヤドームの協力を得て行う「野球が生み出す絆」をテーマにした社会調査や、東日本大震災で被災した宮城県的美田園仮設住宅に住む子ども達の支援など、現地に赴き、様々な活動に取り組んでいる。現場に身を置き、自分の目で確かめ、多くの人の声を聞き、記録していくフィールドワークを学びの手法の核としている。

しなやかに挑み続ける新生・中京大学

CHUKYO UNIVERSITY

2014
July

東京オリンピック・パラリンピック組織委員会

●学生、市民らに五輪教育 ●学生ボランティア育成

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会 大学連携協定締結式



◀本学含む552大学が協定を締結

人材育成で 連携協力

名古屋市教育委員会

●小中学校の体育や部活動を補助 ●学生の実践教育の場



▲北川薫学長(左)と下田一幸名古屋市教育委員会教育長

松阪市

●学術協力で政策提案
●地域スポーツの振興

豊田市

●イベント企画や運営でまちづくり
●同市に設置の5大学・高専が持ち味生かす

現代社会学部が来春4専攻制に 社会の諸問題と正面から向き合う

ゼミにフォーカス 第2回テーマ【実験・実証】
実験を通じて論理的思考鍛える

ロボカップジャパンオープンで優勝 工学部・学生選抜チーム



▲シュートを狙うChukyo RoboStars(ロボカップ ジャパンオープン)